

—6月市議会報告—

議会でも、見直しの声あいつぐ

(通常工程なら79年間。完了、平成106年)

山崎議員「羽村駅西口区画整理事業の工事完了時期は、何時か？」

市長「施行期間を平成27年度から30年間とし、工事完了を平成56年と見据えている。

国及び東京都は、概ね10年を一定の延伸期間として設定することが望ましく、10年を、まずは一つの延伸期間として考え、弾力的に見直しを行いながら事業推進を図っていく事が妥当との考え方を示した。

期間をどのように示したら関係権利者や市民の理解を得る事ができるかを考えながら、国や東京都と調整して行きたい。」

門間議員「当初、平成15年からの20年計画が、平成56年迄となると、トータル約40年、2倍になる。事業費も2倍の約700億円になる可能性だってあるのではないか。」

印南議員「資金的に裏付けされた全体の事業計画が示されていない。現時点で30年後完成予定と言われても、また将来的に大幅に延伸する可能性があるのではないか。」

水野議員「地権者の年齢別人数は？」

市長「20歳代が7人、30歳代が23人、40歳代が129人、50歳代198人、60歳代275人、70歳代279人、80歳代147人、90歳代34人。」

水野議員「今後30年の事業の責任を誰がどうとれると考えているか？」

市長「市が事業計画を決定したことから事業継続、継承は施行者である羽村市の責務。」

住民の合意を得るべき！

水野議員「駅前広場と3・4・12号線にしぼって進める計画に変更し、財政や地権者の負担を軽減し、その他については改めて住民合意を得て計画すべき。」

印南「期間短縮のため、継続エリアとそれ以外の手法エリアに分けてはどうか？」

市長「今後も区画整理を基軸とした手法により、引き続き事業の促進を図る考え。」

印南議員「前回あたりから、後30年とか本当は50年、70年以上という話しが出てきた。これから先、何十年かかっても現計画のまま完成させて行く方針には疑問がある。1200人の権利者のうち、今後30年、建築制限が長期化しても、現計画のままの整備を望んでる人がどのくらいいるのか。」

石川部長「人数そのものは把握していない。実施段階なので、直接話をして理解頂く。」

印南議員「飯能市は、区画整理進行中だが、市職員が5年かけて新しい計画を作った。既に区画整理が先行している区域は継続エリア、それ以外の所を地区計画・整

備計画を担保し、セットバックや用地買収による道路整備をしていくやりかたで、工期を1/5、事業費を1/2に、そして減歩率を下げた。羽村市も財政状況が厳しい。工期を短縮し権利者にも行政にも負担減になる新しい計画を考えるべき。」

印南議員「また、飯能市はアンケートを行った、岩沢北部地区では、早急に見直した計画を進めるべきが159世帯、時間がかかっても現計画のままでも8世帯だった。羽村市も大幅な延伸の可能性が出てきた今、権利者達が今何を求めているか、一度しっかりと調査をして欲しい。」

集団移転工法が住民の生活を破壊する

市長「集団移転となる棟数を算出すると、59か所、約670棟を想定している。」

鈴木議員「事業が始り20年経っているので、よく解らなくて反対してるというより、よく解った上で納得していないので、移転協議は難航する。」

鈴木議員「集団移転は確かに合理的で、みんなで一度場所を空けて、後で帰ってくるとなれば、キャンパスのように自由に絵を描ける。

だが、ことはそう単純ではない、西口区画整理の特徴は反対の人が非常に多い。第二次換地案に対し427人、1/3の方がこの事業に対して反対の声を上げている。絆プロジェクトで、西口区画整理は住民の絆をつくるんだと言っていたが、これは逆。絆を利用して反対する人にプレッシャーをかける。ここに困難さがある。」

不都合な情報も全て出して、権利者の判断を仰ぐべき

水野議員「この事業が成功するためには、恐れずに情報を開示して、現実を見た上で地権者に協力を求める。有り得るとい話しはしなければいけない。全部隠して協力しろというやり方はおかしい。

仮住まいが一番長い人、一番短い人の期間も個人情報の関係で答えられないというが、不都合な情報も全て出して協力してもらう。いろんな理由をつけて逃げ、後で事が起こったら、地権者はこんなはずではなかったとなりませんか？」

石川部長「個人情報の取扱いは、実施機関として慎重にならざるを得ない。」

水野議員「由らしむべし知らしむべからずと聞こえる。だから責任者は誰だと聞いている。このような進め方では、事業の期間が倍、3倍になりかねないと危惧する。」

巨大擁壁工事は立体模型が必要。一体、何時作るのか？

門間議員「専門家に畳一畳ほどの完成立体図を作ってもらい、市役所ロビーに展示し、尚且つ何十年かかる、お金はこれだけかかると示してこそ情報公開ではないか？」

市長「これまでも答えているが、将来的なイメージを視覚的に示して行きたい。」

水野議員「3・4・12号線の二重構造など、立体的に分かるものを作る考えはないのか？」

石川部長「立体のところは載っていないのは、区画整理とは別事業で、東京都の事業になるので、具体的なものは市の資料の中に載せられない。」

水野議員「結局、どちらも一体の事業。統合的にちゃんと見えるようにすべき！」